

品目	1 塩化ホスホリル及びこれを含有する製剤	2 五塩化燐及びこれを含有する製剤
	塩化ホスホリル	五塩化燐
廃棄方法	<p>(1) アルカリ法  多量の水酸化ナトリウム水溶液に攪拌しながら少量ずつ加えて可溶性とした後、希硫酸を加えて中和する。</p> <p>〈備考〉  (ア) 水酸化ナトリウム水溶液と急激に混合すると多量の熱を発生し、水溶液が飛散することがあるので注意する。  (イ) 中和時の pH は 8.5 以上とする。</p>	<p>(1) アルカリ法  多量の水酸化ナトリウム水溶液に攪拌しながら少量ずつ加えて可溶性とした後、希硫酸を加えて中和する。</p> <p>〈備考〉  (ア) 水酸化ナトリウム水溶液と急激に混合すると多量の熱を発生し、水溶液が飛散することがあるので注意する。  (イ) 中和時の pH は 8.5 以上とする。</p>
生成物		
検定法	吸光光度法	吸光光度法
その他	毒物の付着した使用済の容器等を焼却すると塩化ホスホリル、塩化水素等のガスを発生するので、洗浄装置のない焼却炉等で焼却しない。	毒物の付着した使用済の容器等を焼却すると塩化ホスホリル、塩素等のガスを発生するので、洗浄装置のない焼却炉等で焼却しない。

3 三塩化硼素及びこれを含有する製剤	4 三塩化磷及びこれを含有する製剤
三塩化硼素	三塩化磷
<p>(1) アルカリ法  多量の水酸化ナトリウム水溶液中に徐々に吹き込んでガスを吸収させ、可溶性とした後、希硫酸を加えて中和する。</p> <p>〈備考〉  中和時の pH は 8.5 以上とする。</p>	<p>(1) アルカリ法  多量の水酸化ナトリウム水溶液に攪拌しながら少量ずつ加えて、可溶性とした後、希硫酸を加えて中和する。</p> <p>〈備考〉  (ア) 水酸化ナトリウム水溶液と急激に混合すると多量の熱を発生し、水溶液が飛散することがあるので注意する。  (イ) 中和時の pH は 8.5 以上とする。</p>
吸光光度法	吸光光度法
<p>作業の際には未反応の有毒なガスを発生することがあるので、必ず保護具を着用する。</p>	<p>毒物の付着した使用済の容器等を焼却すると三塩化磷のガスを発生するので、洗浄装置のない焼却炉等で焼却しない。</p>

5 三弗化硼素及びこれを含有する製剤	6 三弗化磷及びこれを含有する製剤
三弗化硼素	三弗化磷
<p>(1) 分解沈殿法</p> <p>多量の水酸化ナトリウム水溶液中に徐々に吹き込んでガスを吸収させ、可溶性とした後、希硫酸を加えて中和する。この溶液に、多量の塩化カルシウム水溶液を加え、数時間加熱攪拌する。ときどき水酸化カルシウム水溶液を加えて中和し、もはや溶液が酸性を示さなくなるまで加熱し、沈殿ろ過して埋立処する。ろ液は多量の水で希釈して処理する。</p> <p>〈備考〉</p> <p>(ア) 処理中に生成するテトラフルオロホウ酸イオンの分解には長時間の加熱が必要である。分解を検定法で確認することが望ましい。</p> <p>(イ) 希硫酸を過剰に加えないように注意する。希硫酸を過剰に加えると弗化水素のガスを発生する。</p> <p>(ウ) 中和時の pH は 8.5 以上とする。これ以下では沈殿が完全には生成しない。</p>	<p>(1) 分解沈殿法</p> <p>多量の水酸化ナトリウム水溶液中に徐々に吹き込んでガスを吸収させ、可溶性とした後、希硫酸を加えて中和する。この溶液に多量の塩化カルシウム水溶液を加えて処理し、沈殿ろ過して埋立処分する。</p> <p>〈備考〉</p> <p>(ア) 希硫酸を過剰に加えないように注意する。希硫酸を過剰に加えると弗化水素のガスを発生する。</p> <p>(イ) 中和時の pH は 8.5 以上とする。これ以下では沈殿が完全には生成しない。</p>
CaF <sub>2</sub>	CaF <sub>2</sub> 、Ca (PO <sub>4</sub> ) <sub>2</sub>
<p>吸光光度法</p> <p>イオン電極法 (テトラフルオロホウ酸イオン電極を使用すること) (F)</p>	<p>吸光光度法</p> <p>イオン電極法 (F)</p>
<p>作業の際には未反応の有毒なガスを発生することがあるので、必ず保護具を着用する。ガスは少量の吸入であっても危険なので注意する。</p>	<p>作業の際には未反応の有毒なガスを発生することがあるので、必ず保護具を着用する。ガスは少量の吸入であっても危険なので注意する。</p>

7 四弗化硫黄及びこれを含有する製剤	8 ジボラン及びこれを含有する製剤
四弗化硫黄	ジボラン
<p>(1) 分解沈殿法  多量の水酸化ナトリウム水溶液中に徐々に吹き込んでガスを吸収させ、可溶性とした後、希硫酸を加えて中和する。この溶液に、多量の塩化カルシウム水溶液を加えて処理し、沈殿ろ過して埋立処分する。</p> <p>〈備考〉  (ア) 希硫酸を過剰に加えないように注意する。希硫酸を過剰に加えると弗化水素のガスを発生する。  (イ) 中和時の pH は 8.5 以上とする。これ以下では沈殿が完全には生成しない。</p>	<p>(1) 焼却法  スクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴射し、焼却する。</p> <p>(2) 酸化法  多量の次亜塩素酸ナトリウムと水酸化ナトリウムの混合水溶液中に徐々に吹き込んでガスを吸収させ、酸化分解した後、多量の水で希釈して処理する。</p> <p>〈備考〉  (ア) スクラバーの洗浄液には水酸化ナトリウム水溶液を用いる。  (イ) 酸化はアルカリ性で十分に時間をかける必要がある。</p>
CaF <sub>2</sub> 、CaSO <sub>4</sub>	
吸光光度法 イオン電極法 (F)	吸光光度法
作業の際には未反応の有毒なガスを発生することがあるので、必ず保護具を着用する。ガスは少量の吸入であっても危険なので注意する。	作業の際には未反応の有毒なガスを発生することがあるので、必ず保護具を着用する。ガスは少量の吸入であっても危険なので注意する。

9 亜塩素酸ナトリウム及びこれを含有する製剤	10 トリクロロシラン及びこれを含有する製剤
亜塩素酸ナトリウム	トリクロロシラン
<p>(1) 還元法</p> <p>還元剤（例えばチオ硫酸ナトリウム等）の水溶液に希硫酸を加えて酸性にし、この中に少量ずつ投入する。反応終了後、反応液を中和し、多量の水で希釈して処理する。</p>	<p>(1) 分解沈殿法</p> <p>多量の水酸化ナトリウム水溶液中に徐々に吹き込んでガスを吸収させた後、希硫酸を加えて中和し、沈殿ろ過して埋立処分する。</p> <p>〈備考〉</p> <p>中和時の pH は 8.5 以上とする。これ以下では沈殿が完全には生成しない。</p>
	SiO <sub>2</sub>
滴定法	吸光光度法
<p>ア 一度に大量の亜塩素酸ナトリウムを投入すると、有害で爆発性のある二酸化塩素を発生するので注意する。</p> <p>イ 爆発的に燃焼するおそれがあるので、劇物の付着した使用済の容器等をそのまま焼却しないこと。</p>	

11 ヒドロキシルアミン塩類及びこれを含有する製剤	12 モノゲルマン及びこれを含有する製剤
硫酸ヒドロキシルアミン	モノゲルマン
<p>(1) 焼却法 水溶液をアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉の火室に噴霧して、できるだけ高温で焼却する。</p> <p>(2) 酸化法 水酸化ナトリウム水溶液を加えてアルカリ性 (pH11 以上) とし、酸化剤 (次亜塩素酸ナトリウム、さらし粉等) の水溶液を加えて酸化分解したのち硫酸を加え中和し、多量の水で希釈して処理する。</p>	<p>(1) 酸化沈殿法 多量の次亜塩素酸ナトリウムと水酸化ナトリウムの混合水溶液中に徐々に吹き込んでガス吸収させ、酸化分解した後、多量の水で希釈して処理する。</p> <p>〈備考〉 (ア) 酸化はアルカリ性で十分時間をかける必要がある。 (イ) 中和時の pH は 8.5 以上とする。これ以下では沈殿が完全には生成しない。</p>
	Ge (OH) <sub>4</sub>
吸光光度法	吸光光度法 原子吸光法
劇物の付着した使用済の容器等を焼却する場合は、洗浄装置のない焼却炉等では焼却しない。	酸化沈殿法の作業の際には未反応の有毒なガスを発生することがあるので、必ず保護具を着用する。ガスは少量の吸入であっても強い溶血作用があり、危険なので注意する。